

事前に提出いただいた意見書

東 一 成	委員
高 山 京 子	委員
瀧 澤 啓 次	委員
幡 野 敏 彦	委員
青 柳 貴 久	委員
山下恵久子	委員
松本より子	委員
宮 澤 聖 二	委員
今 井 英 雄	委員
森 谷 秀 一	委員

意見書

委員氏名 東 一成

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

敬老祝金事業についての意見を記載します。

議事録を読んだ意見のため、少し今までの議論の流れと異なる部分があるかもしれません。その点は修正していただいて結構です。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

-----以下、意見書-----

【入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて】

意見

- ・支給対象は100歳のみで良いと思います。
- ・100歳への支給は額と祝状のみで良いと思います。
- ・100歳への祝金、祝品は廃止で良いと思います。

敬老祝金等支給事業継続のメリットは

- ① 高齢者への感謝と敬意の表現(高齢者福祉の象徴的なイメージ)
- ② 地域のつながりの促進

一方でデメリットは

- ① 財源負担
- ② 支給年齢の不公平感
- ① 事務的コストと人的負担

になると思います。

○88歳の廃止について

先日の会議でメリットの②について、山下委員から「昨今の現状から、この点について事業継続に疑問(インターホンにでない。ポストに投函してくれと言われるなど。)」という意見の記載がありました。非

常に重要なご意見だと思います。

またデメリットとして、800～900 人が想定される 88 歳の市民に民生委員が手渡しする方法は、③のような数字で計上できないコストが非常に大きいと思います。この先何十年と考えると明らかに持続可能性が低いと考えます。メリット②が現状得られないのであれば、88 歳への事業継続のメリットは小さく、廃止が良いと思います。

また、廃止することにより $822 \text{ 人} \times 5,000 \text{ 円} = 4,110,000 \text{ 円}$ のコストが削減できるのであればそのメリットは大きいと考えます。

また、88 歳だけを残すということでの不公平感は、廃止してもそこまで納得度はかわらないのではないかと考えます。

○100 歳の継続について

この事業によるメリット②の効果が、昨今の事情により希薄となっているのであれば、メリット①がこの事業のメリットと考えます。

メリット①において、祝金の効果は少ないのではないかと考えます。国からお祝い状と記念品があるのであれば、市ではそれを入れる額と市からの祝状で十分と考えます。

100 歳のみとする不公平感も、88 歳を残すこととさほど変わらないように感じます。

また、贈呈方法も市長が手渡しなのであれば、大きな事務コストと人的負担は生じないですし、事業のメリットにも即していると思います。市長が直々に額と祝状を届けてくれることで、高齢者への感謝と敬意の表現としては十分でないかと思っています。

事業の性質が、廃止して誰かが困る事業とは異なると思いますので、積極的に縮小していく事業だと思います。感情面でさみしい部分はありますが、財政的に感情面の考慮は後回しにせざるを得ないと思います。

以上です。

意見書

委員氏名 高山 京子

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

見直し案についてご異議ございません。

見やすい資料をありがとうございます。

財政の厳しい中、仕方のないことと思います。

今後、大規模修繕等が実施される中、令和9年度適用の見直し案については、高齢者福祉事業を充実するための一部につながれば見直す意味があると思いました。

意見書

委員氏名 瀧澤 啓次

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

Q 私は、基本的には狭山市案に賛成である。特定の方への敬老祝金の支給でなく、限られた財源を必要な福祉施策や事業に充当すべきと考えます。

(どうしてもと言うことであれば、100歳以上の方への「祝い状」のみ支給)

Q 実施時期について令和9年度を考えているようであるが、敬老祝金の見直しについては、私が審議会委員になる前から他市の状況に合わせ改正すべしとして取り上げられていた課題である。また令和6年度に設置した、市長の諮問機関である「いるまドック」の評価でも敬老祝金については、廃止・凍結の判定で、ゼロベースで見直すべしとの意見でした。入間市高齢者福祉審議会で決定した事項については、財源の問題を考えるのであれば「市の都合でなく」速やかに実施すべしと考えます。

意見書

委員氏名 幡野 敏彦

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

入間市の人口が減少していく中、高齢者の人口は増加することが予測されており
財源にも限りがあるため、必要な福祉施策等に充てていくことが望ましいと考える。
88 歳の方も含め廃止にして、審議会意見案のほうに賛成をします。

意見書

委員氏名 青柳 貴久

(2) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

(1) 入間市敬老祝金支給事業見直しについて

通所介護従事者として感じますが、通所介護の利用者様の平均年齢も徐々に上昇傾向が見られています。通所介護事業所によって敬老のお祝いは様々ですが、節目の方のお祝い（米寿・喜寿・白寿）を行っている事業所が多いと思います。

それをふまえると、審議会意見 案 2 の 88 歳の廃止案に賛成します。審議会意見案での見直しの方向性で良いと思います。

その他、特にありません。

意見書

委員氏名 山下 恵久子

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

入間市福祉部高齢者支援課
高齢者福祉審議会担当者様

参考資料をご準備頂きありがとうございました。意見書作成に参考になりました。第一回の審議会の会議録と併せてもう一度目を通し考えてみました。

資料 1 の 2 ページ

7 敬老祝金等支給事業の見直し後の支給対象➡88 歳及び 100 歳の方の方向で協議しましたが、その後、審議会の意見案として➡88 歳の方も含めて廃止する方向も検討されました。
前回の審議会での松本委員のご意見に「88 歳問題も直ぐに訪れる」ことから、無しの方向で考えてもいいのでは、の提案には賛成できました。

賛成の理由

【人生 100 年時代】と言われて、既に多くの国民・市民が目にし、耳にしているくらい違和感のないフレーズになってきています。
ある書物に、人生 100 年時代とは、平均寿命が延び 100 歳まで生きることが当たり前になるという考え方。日本でも政府が「人生 100 年時代構想会議」を設置するなど社会全体でこの変化に対応しようという動きが広がっているとありました。

資料 2

見直し等の変遷➡を見て、祝金が大幅に減額された時でも大きな苦情が寄せられなかったようです。であれば、➡見直し後の支給対象は、100 歳の方のみでいいのではないのでしょうか。

入間市は廃止ではなく見直しですが、狭山市が敬老祝金事業を廃止した経緯（※狭山市議会議事録より）は参考になります 資料 4

上記を踏まえての感想をですが、私はボランティアとして現場に出ています。

初めて【人生 100 年時代】を目にしたのは、身近なサロンで企画した地域包括支援センターさんの「健康寿命」に関する説明だったと記憶しています。市民と直接接している包括支援センターはじめ施設の方々のご尽力で私たちボランティアもサロンを利用する大勢が、社会の変化を知り、学んでいます。

見直しになった場合はその財源は職員を増やすとか現場の方の働きがしやすい環境づくりや、ボランティア支援等を願って、見直し案に賛成します。

意見書

委員氏名 松本 より子

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

〈意見〉

案２に賛成です。

限られた財源を他の福祉施策に当てた方がいいと思います。

意見書

委員氏名 宮澤 聖二

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

1 配付資料について

資料 3 の記載 人口の 65 歳以上人口の割合→一般的には“高齢化率”というのではないか？

2 資料 1 について

狭山市の欄に「平成 27 年までは実施していたが 12 月議会で条例廃止を決定し、現在は実施していない」と書いてはどうか？

3 資料 2 について

とてもいねいに書かれている。平成 12～17 年度(2000～2007)」→2007 ではなく「2005」では？

4 資料 3 について

比率を高齢化率にしてはどうか？

5 資料 4 について

①タイトルに(案)とあるが、不要ではないか？

②所沢市の状況はいつのものか？(資料 1 の所沢市の状況はいつのものか？(資料 1 の所沢市の令和 5 年とも数字がちがう)

例えば、令和〇〇年度決算実績と書いては？

6 参考資料、会議録、特になし

意見書

委員氏名 今井 英雄

(1) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

審議会委員各位

送っていただいた資料を読みました。

88歳の廃止について第1回では継続審議となり今回の第2回で88歳についても廃止するという事務局提案がなされています。

また議事録を読むと各委員は財政事情により廃止やむなしとの流れになっていると認識しました。

ダイア五市の状況は、所沢を除けば殆どの市が入間市よりも規模が小さくまた縮小傾向にあることがわかりました。

私の意見は以下の通りです。

- ・88歳を含めて廃止の提案に賛成します。

審議会委員と入間市民に対して入間市の財政状況について漠然と苦しいというコメントだけでは不十分で、

高齢者関係の予算が現状年間どのくらいあり、今後どのように増えていくかということのをきちんと説明する必要があると思います。

特に介護保険については介護予算の25%が概ね県と市の負担になっていますので、高齢者数の増加によって、それが今後どのくらい増えていくのかというシミュレーションは可能ですので、それを提示し、敬老祝金制度を縮小することで市の財政に一定の貢献が可能と説明することができます。

敬老祝金の制度が、要介護状態の改善に効果的というエビデンスが

あれば別ですが、多分そのようなエビデンスは見つからないと思います。

つまり、高齢者福祉への効果的な施策はなんなのかと考えると敬老祝金の優先順位は低いということです。

以上

意見書

委員氏名 森谷 秀一

(2) 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて

5/21 の第 1 回審議会において、意見を述べましたので、ありません。